

## ムービープラス・アワード 2014

映画ファンと映画業界関係者が選ぶ2014年の作品賞(洋画部門)は『アナと雪の女王』と『6才のボクが、大人になるまで。』に決定！  
邦画部門は『小さいうち』と『渇き。』が受賞！

CS 映画専門チャンネル「ムービープラス」(ジュピターエンタテインメント株式会社、東京都千代田区、代表取締役社長:宮田 昌紀)は、映画ファンや映画業界関係者がベスト作品やベスト監督などを選ぶ『ムービープラス・アワード 2014』を実施し、<映画ファン大賞>洋画部門の作品賞が『アナと雪の女王』、宣伝・興行・評論家・ライターなどの映画業界関係者が選ぶ<映画スペシャリスト大賞>が『6才のボクが、大人になるまで。』に、邦画部門の作品賞は、<映画ファン大賞>が『小さいうち』、<映画スペシャリスト大賞>が『渇き。』に決定いたしました。

映画ファンと映画スペシャリストの受賞結果を比較してみると、洋画部門の作品賞は、興行収入 254 億円の大ヒットとなった『アナと雪の女王』が映画ファンに支持された一方、映画スペシャリストでは、先日発表されたゴールデングローブ賞で作品賞など主要3部門を受賞し、アカデミー賞でも大本命と呼び名の高い『6才のボクが、大人になるまで。』が1位を獲得。

邦画部門では、出演の黒木華がベルリン国際映画祭の最優秀女優賞を受賞した『小さいうち』が映画ファンの心をつかみ、映画スペシャリストでは、過激な内容で観客を圧倒した中島哲也監督作『渇き。』が支持されました。そのほかの注目作品は、主人公セオドアと人工知能サマンサの関係を繊細なタッチで表現した『her/世界でひとつの彼女』が、ベストカップル賞<映画ファン大賞>において2位にランクイン。また、壮大なスケールで宇宙を描き、映画の新たな表現方法を開拓したSF映画『インターステラー』は、<映画ファン大賞><映画スペシャリスト大賞>双方で、監督賞と俳優賞をW受賞しました。各部門の受賞結果を下記の通り発表します。

### <作品賞>

#### ■映画ファン大賞 洋画部門

- 1位 『アナと雪の女王』
- 2位 『インターステラー』
- 3位 『マレフィセント』

#### ■映画ファン大賞 邦画部門

- 1位 『小さいうち』
- 2位 『テルマエ・ロマエ II』
- 3位 『まほろ駅前狂騒曲』

#### ■映画スペシャリスト大賞 洋画部門

- 1位 『6才のボクが、大人になるまで。』

#### ■映画スペシャリスト大賞 邦画部門

- 1位 『渇き。』

### <監督賞>

#### ■映画ファン大賞

- |    |              |              |
|----|--------------|--------------|
| 1位 | クリストファー・ノーラン | 『インターステラー』   |
| 2位 | デヴィッド・フィンチャー | 『ゴーン・ガール』    |
| 3位 | クリント・イーストウッド | 『ジャージー・ボーイズ』 |

#### ■映画スペシャリスト大賞

- 1位 クリストファー・ノーラン 『インターステラー』



映画ファン大賞の作品賞(洋画部門)に選ばれた『アナと雪の女王』  
©2015Disney



映画スペシャリスト大賞の作品賞(洋画部門)に選ばれた『6才のボクが、大人になるまで。』  
©2014 boyhood inc./ifc productions i. L.L.C. ALL rights reserved.

<俳優賞>

■映画ファン大賞

- 1位 マシュー・マコノヒー 『インターステラー』、『ダラス・バイヤーズクラブ』ほか  
2位 アンジェリーナ・ジョリー 『マレフィセント』  
3位 ブラッド・ピット 『フューリー』、『それでも夜は明ける』

■映画スペシャリスト大賞

- 1位 マシュー・マコノヒー 『インターステラー』、『ダラス・バイヤーズクラブ』ほか

<ベストカップル賞>

■映画ファン大賞

- 1位 アナ(声:クリステン・ベル) & エルサ(声:イディナ・メンゼル) 『アナと雪の女王』  
2位 セオドア(J・フェニックス)&サマンサ(声:S・ヨハンソン) 『her/世界でひとつの彼女』  
3位 多田啓介(瑛太) & 行天春彦(松田龍平) 『まほろ駅前狂騒曲』

■映画スペシャリスト大賞

- 1位 ティム(D・グリーンソン) & メアリー(R・マクアダムス) 『アバウト・タイム ~愛おしい時間について~』  
ロケット(声:B・クーパー) & グルート(声:V・ディーゼル) 『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』

<ベストバトル賞>

■映画ファン大賞

- 1位 エクスペンダブルズ vs ストーンバンクス 『エクスペンダブルズ3 ワールドミッション』  
2位 シャーマン戦車(フューリー号) vs ティーガー戦車 『フューリー』  
3位 ニック・ダン (ベン・アフレック) vs エイミー・ダン (ロザムンド・パイク) 『ゴーン・ガール』

■映画スペシャリスト大賞

- 1位 チーム“ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー” vs ロナン一味 『ガーディアンズ・オブ・ギャラクシー』  
キャプテン・アメリカ vs ウィンター・ソルジャー 『キャプテン・アメリカ/ウィンター・ソルジャー』

<ベスト吹替賞>

■映画ファン大賞

- 1位 『アナと雪の女王』  
2位 『ベイマックス』  
3位 『マレフィセント』

■映画スペシャリスト大賞

- 1位 『アナと雪の女王』

各賞の結果は、1月24日(土)11時15分からムービープラスで放送される特番「映画館へ行こう～発表！ムービープラス・アワード 2014」及び、『ムービープラス・アワード 2014』特設WEBサイトでも発表します。  
特設WEBサイト⇒ <http://www.movieplus.jp/award2014/>

ムービープラス(ジュピターエンタテインメント株式会社、代表取締役社長:宮田昌紀)は、今年開局26年目を迎えた日本最大級の映画チャンネルです。ハリウッドのヒット作をはじめとする国内外の選りすぐりの映画、映画祭、最新映画情報を放送し、J:COMなど全国のケーブルテレビやスカパー！、IP放送を通じ、約720万世帯のお客様にご覧いただいています。URL: <http://www.movieplus.jp>

本件に関するお問い合わせ先

■ 一般の方のお問い合わせ先 ■

ムービープラス カスタマーセンター

TEL: 0120-945-844 (受付時間10~18時/年中無休)

■ 報道関係の方のお問い合わせ先 ■

ジュピターエンタテインメント(株) ムービープラス PR担当

TEL: 03-6760-8410 (代表)

『ムービープラス・アワード 2014』実施概要

【ムービープラス・アワードとは】

前身は 2002 年にスタートした、視聴者が選んだベスト作品を発表する番組「あなたが選ぶ！ベストムービー」。2009 年からは、放送、シネマコンプレックスチェーン、モバイル映画サイトといった、映画に関わる3つのブランドが連携し、一般の映画ファンがベスト作品などを選ぶ「ベスト・オブ・ベスト アワード」に。2012 年からは、映画ファンの投票に加え、映画業界関係者が選ぶユニークな賞を新たに制定し、名称も『ムービープラス・アワード』となる。さらに、同時期に行われていた「キネマ旬報ベスト・テン」の表彰式にムービープラスが特別協賛。2月7日に文京シビックホールで行われる「第88回キネマ旬報ベスト・テン」表彰式で、『ムービープラス・アワード 2014』の＜映画ファン大賞＞作品賞1位(邦画部門のみ)を表彰予定。

【投票期間】 2014 年 11 月 28 日(金)～2015 年 1 月 4 日(日)

【投票方法】 『ムービープラス・アワード 2014』 特設サイト(<http://www.movieplus.jp/award2014/>)

【対象作品】

2014 年 1 月 1 日～2014 年 12 月 31 日までに、日本国内で公開初日を迎えた新作長編映画

【投票部門】

＜映画ファン大賞＞・・・映画ファンの投票により決定

＜映画スペシャリスト大賞＞

・・・映画宣伝、興行、映画評論家、ライター、バイヤーなど、映画業界関係者の投票により決定

①作品賞(洋画・邦画)

②監督賞

③俳優賞

④ベストカップル賞・・・映画の中心にいる、ずっと観ていたい、忘れられない2人／性別・年齢不問。動物可。

⑤ベストバトル賞・・・息もつかせぬ攻防戦、緊迫したにらみ合い、巧妙な口喧嘩・・・映画には手に汗にぎる“バトル”が付き物です。

⑥ベスト吹替賞・・・今、吹替版が熱い！吹替版とは日本語版という新しいクリエイティブに作り変えられているものと捉えれば、そこには新しい発見がある。

【結果発表】

1月24日にムービープラスで放送される特番および、『ムービープラス・アワード 2014』特設サイトで発表します。さらに2月7日(土)に行われる「第88回キネマ旬報ベスト・テン」表彰式でも、一部部門の結果を発表・表彰します。

＜結果発表番組 概要＞

番組名： 映画館へ行こう～発表！ムービープラス・アワード 2014

放送日： 1月24日(土) 11:15～11:30、ほか

＜第88回キネマ旬報ベスト・テン表彰式＞

日時： 2月7日(土) 11:00～

場所： 文京シビックホール(東京都文京区春日 1-16-21)

※表彰式での表彰は＜映画ファン大賞＞作品賞(邦画部門)受賞の『小さいうち』のみです。表彰式の出席者は未定です。

\*キネマ旬報ベスト・テンとは・・・

1919(大正8)年に創刊され、現在まで続いている映画雑誌として、日本では最も古い歴史を誇る『キネマ旬報』が毎年行っているアワード。キネマ旬報賞の始まりは、当時の編集同人の投票集計により、まず1924年度(大正13年)のベスト・テンを選定したのが、その最初。当初は＜芸術的に最も優れた映画＞＜娯楽的に最も優れた映画＞の2部門(外国映画のみ)でしたが、1926(大正15)年、日本映画の水準が上がったのを機に、現行と同様の＜日本映画＞＜外国映画＞の2部門に分けたベスト・テンに変わりました。戦争による中断があったものの、大正時代から継続的にベスト・テンは選出され続けており、2014年度のベスト・テンで88回目を数えます。